

世界農業遺産国際スタディ・プログラム 研修レポート

総論

○研修での学び、気づき、参加前と後の変化

私は大学で地域資源のブランド化など地域づくりについて学んでいるため、様々な地域資源があるイタリアではどのようにそれらが活かされているのかと興味を持ち今回の研修に参加した。特に、地域の資源を活用したグリーンツーリズムに興味があり、今回の滞在ではファームステイやオリーブ畑、ワイナリーなどが印象に残った。これらの体験を通して気づいたことは、「ストーリー性」が重要であるということだ。例えば、参加前に楽しみにしていたオリーブ畑については、ただ見るだけでなく「なぜこのような景観が出来たのか」「どのような歴史があるのか」といった説明を受けたり、いくつかのオリーブオイルの味見を行ったりしながら巡ったことで理解が深まり、より魅力的に感じる事が出来たと思う。また、オリーブ畑やブドウ畑、ファームステイでの料理などでこの地域の地形や気候に適したものが数多く見られ、自然と人々の生活は非常に密接につながっているのだと改めて感じる事が出来た。このような体験から、その地域独自のストーリー性はまちを好きになってもらうために重要な要素だと感じた。さらにストーリー性に付随して特産品がブランディングされているのも印象的であり、地域経済の発展につながっていると感じた。そして、このような地域性について、現地の住民たちが一番に理解し、他の観光客などに伝えていくことが地域振興には重要だと考える。

○研修で得たことを今後どのように活かすか

能登地域の振興を考えるにあたって今回の研修での学びを活かすことが出来ると考える。例えば、能登にも里山や里海など多くの資源があるため、能登地域が一体となってこれらのストーリー性を上手く伝えていけるような体験型観光を推進していくことが地域振興につながるのではないだろうか。

そして、研修を通して私は将来的に、地域の特性を活かしたまちづくりに携わりたいという想いが強くなった。歴史や自然、生活スタイルなどそのまちによって大きく異なることを実感したため、そういった地域独自の文化を活かして豊かな地域社会をつくりたいと思う。

○次期参加者へのメッセージ

本研修は今後の人生を考えてもかなり貴重な経験になると思います。国際機関の訪問や現地でのファームステイといった研修内容は旅行などでは滅多に出来ない体験で、こうした貴重な経験を通して新たな知見や価値観を得ることができました。

また、大学・専攻分野の異なる他の学生、スタッフや現地の方々など普段属するコミュニティでは出会えないような人々と出会えたことも大きな収穫になりました。自分とは違

った知識、考えをもつ方々と意見交換することは学びが多く、自分を成長させてくれる良い機会になります。

石川県にいるからこそできる研修なので、参加できるチャンスがあり少しでも興味を持っているのならばぜひ参加してみる事をお勧めします。